

朝鮮半島の南北衝突についての緊急声明

立命館大学国際平和ミュージアム
名誉館長・安斎育郎 / 館長・高杉巴彦

伝えられるところによると、2010年11月23日午後、韓国が北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）との軍事境界線と位置付ける「北方限界線（NLL）」近くの韓国領ヨンピョンド（延坪島）に対して、北朝鮮側から170発もの砲弾が撃ち込まれ、韓国兵士2人が死亡、十数人が重軽傷、民間人も2人が死亡しました。これに対して、韓国側も約80発の砲撃で応戦し、朝鮮戦争の休戦状態下にある韓国・北朝鮮間の軍事的緊張が高まっていると言われています。

私たちは、「過去と誠実に向き合い、現実を直視し、平和な未来を創造すること」をめざす平和博物館の立場から、以下の諸点を求めます。

（1）軍事的緊張を高める今回の北朝鮮の行動は許されるものではなく、政府機関および非政府機関は、国の内外で、軍事的緊張のこれ以上の深刻化を回避するために可能な具体的行動を速やかにとるよう努力すること。

（2）政府機関および非政府機関は、事実関係の究明とともに、挑発的・煽動的言動の自制につとめ、敵対的な世論を煽り立てるような行動を慎むこと。

（3）あわせて、日本政府が、今後韓国・北朝鮮との関係改善に努めて、北東アジアの平和と安全に関わるこうした問題について積極的な外交上の役割を果たせるよう努力すること。

当国際平和ミュージアムとしても、これまでの国内外の平和博物館関係者との共同によって培われたネットワークを通じて、軍事緊張の拡大を防ぐための可能な行動をとるよう呼びかけるものです。それらの行動としては、事実関係の究明や挑発的・煽動的言動の自制を求める声明やメッセージの発信、事実関係に関する最新情報や内外の平和的努力を紹介する活動、情報や意見を交換するための機会づくりなどが含まれますが、当館としてもその具体化のために引き続き努力をしていきます。

以上

2010年11月24日